

(14) 被服学教育FD/IT活用研究委員会

本委員会(委員長:高部啓子、実践女子大学)は、20年6月、9月、10月、21年3月の計4回開催した。学士力の検討に当たっては、被服系基礎力、作る側、売る側、使う(着る)側に必要な能力を検討し、①被服の歴史・文化・役割の理解と表現力、②人体と被服構造・構成関係の理解、③材料特性の理解と企画設計、着用評価、維持管理、④関連産業の理解と社会ニーズの取り入れ、⑤環境とのかかわりの理解と生活の質の向上として整理し、インターネットで被服学担当教員(サイバーFD研究員)53名に意見を求めたところ、4名からの意見を踏まえ、以下の通り中間的にとりまとめた。

<被服学教育における学士力>

1. 被服の歴史・文化や役割を理解し、表現する能力を身につけている。
※ 被服の歴史や文化、装飾・衿み・身体保護などの被服の社会的、保健衛生的役割を理解し、被服に関する、あるいは被服を用いたプレゼンテーションや文章表現、服飾造形などによるイメージや感性の表現ができる力を有し、これらを手段として他者とのコミュニケーションがとれる能力)
2. 人体と被服構造・構成の関係を理解し、表現できる。
※ 着衣基体としての人体の構造と運動、形態、生理を理解し、それらを把握する能力を有し、被服素材の選択や被服パターンの設計において、人体と被服構造との関係や人体と被服構成との関係を理解し、応用できる能力)
3. 被服材料の特性を理解し、企画設計、着用評価、維持管理ができる。
※ 被服材料の化学的、物理的特性を理解し、その知識を応用して被服造形の企画設計ができる能力、完成品の被服を着用した場合の審美性、形態適合性、動作適合性、生理的適合性、心理的適合性を着用者及び観察者の立場から評価できる能力、使用中の被服について形態を保持し、衛生的で快適であるよう維持管理できる能力を有すること
4. 被服関連産業を理解し、社会のニーズを把握する方法論を身に付ける。
※ 繊維、アパレル産業における企画設計、生産、流通の仕組みや周辺領域の産業について理解し、社会、経済、環境などの時代の流れを意識しながら、生産者、消費者双方の立場から社会のニーズをとらえ、それに応じた活動ができる能力
5. 被服と環境との関わりの重要性を意識し、生活の質の向上に配慮することができる。
※ 被服の生産、流通、消費において生ずる環境問題を理解し、社会との関連において、環境汚染、過大なエネルギー消費に至らない省資源的ライフスタイルを考えながら、生活の質を向上させることができる能力。